



毎月、京都、大阪、東京で部会をひらき、随時、全国各地でワークショップなどを開催。毎回多くの参加者が集う



経済教育ネットワークの理事長を務める同志社大学経済学部の篠原総一教授

「経済教育は経済そのものを教えるのではなく、社会を見る目を養うもの。社会のあり方を考えるとき、正解は一つではないことに気づかせることも大切」と語る



経済教育ネットワークのホームページは、多数の会員が情報を交換し、意見を交わす場となっている
<http://www.econ-edu.net/index.php>

これからの時代に不可欠な、子どもたちへの経済教育

経済教育ネットワーク

子どもたちが自ら考える力を身につけるために

「あなたは、今から牛井屋を起業して経営者になります。では、どうすれば、うまく採算を上げ、借入金返済していくことができるでしょうか。中学校・高校の教室で、ゲーム感覚で牛井屋経営をシミュレーションしていきながら、経営や労働の意味、金融の役割などを学ぶ」。

「こうした教材は、私たちのネットワークの仲間が開発したものです。授業を通して、生徒たちには、社会の仕組みのあり方を考える能力を身につけて欲しい」。こう語るのは、「経済教育ネットワーク」を運営する同志社大学経済学部教授の篠原総一氏。

牛井屋経営のほかにも、マンションの耐震補強工事をテーマにした授業も提案している。「居住者の費用負担が必要ですが、あなたはどうしますか」という問いに対し、「支払わない」ということも選択肢の中にある。このとき、みんなが共通の利益を得るためにはどういう決断が必要かを共に考える授業。経済社会そのものを理解し、政府の役割をイメージすることにもつながるといふ。

もちろん、教材開発は同ネットワークの活動のうちの一部分。その目的は、経済教育を実践するさまざまな個人や団体を、ゆるやかなネットワークで結び、それぞれの教



開会の挨拶をする理事長の篠原教授

昨年9月に京都で開催された経済教育ネットワークの2008年度年次大会の様子



現行の教科書についてのパネルディスカッションや学校における経済教育をどう支援するかなどについても熱心に話し合われた



牛井屋の起業から1年後までをシミュレーションして経済を学ぶ教材。ゲーム感覚で楽しめるため、学校現場でも活用されている(財)日本経済教育センターと連携して開発したもので、次のサイトからダウンロードできる
<http://www.keikyo-center.or.jp/jigyo/project.html>

マンションの耐震改修を通して政府の経済活動を考えるゲーム教材『みんなが共通の利益を受けられるために』これも、(財)日本経済教育センターのサイトからダウンロードできる
http://www.keikyo-center.or.jp/jigyo/pdf/mansion_taishi_nkaisyuu.pdf



独自の教材開発や図書の刊行などは、経済教育ネットワークの活動の一つの柱



経済教育ネットワーク

〒101-8360 東京都千代田区三崎町1-3-2
 日本大学経済学部 2号館
 TEL:03-5259-9070
<http://www.econ-edu.net/index.php>

育活動の向上を支援しようとするものだ。
 混迷する世界と日本の経済、広がる格差、展望しにくい未来……。こうした現状のなか、子どもたちに健全な経済社会のあり方を教えようと、篠原氏は有志の経済学者らとともに、学校の教師や研究機関、企業などに連携を呼びかけてきた。

きっかけは数年前、「今の教科書では、子どもたちに必要な経済教育はできない」と考え、仲間とともに中学・高校に出向き、経済の仕組みを分かりやすく解説する授業をしようとした「ことだったという」。

そうした試みの中から、学校の現場で経済教育に真剣に取り組む教師が大勢いることを知った。

「先生たちは、生徒に経済をどう教えたらいのかと悩んでいます。一方子どもたちのほうは、経済は難しくて自分にはあまり関係がないと考えがち。でも、これからの時代は、社会の仕組みとしての経済を知らないで生きてはいけません」と篠原氏。

それは単に投資やリスクのことを知っておくべきだといふものではない。その根幹にあるのは、「経済教育は、政府や金融などの社会の大きな仕組みを知って、それぞれの働きを理解し、個人の豊かな経済生活の実現や住みよい社会づくりに必要な、自ら考える目を養うためのものである」という考えだ。

こうした考えを軸に、現在、経済教育に携わる学者や小・中・高校の教師、企業人などが情報を共有し、図書制作や教材開発などを進めながら、全国で研修会やワークショップなどを継続的に実施している。

「今後はどう実効性をあげていくのが課題」と言いながら、関係者の経済教育に寄せる思いはますます高まってきているようだ。

(文責・CEL編集室)

CEL

※「先生のための『夏休み経済教室』」及び2008年度年次大会等の写真は、宮尾尊弘氏の提供
 (http://miyao-blog.blog-so-net.ne.jp/より)



現在の日本・世界の経済をどう教えるかを学ぶとともに、参加者間で授業の向上に向けて議論を深める講座となった

東京証券取引所と連携し、昨年夏に東京で開催した「先生のための『夏休み経済教室』」の様子



経済教育ネットワークでは、教師を対象に授業に役立つ経済学のノウハウを伝えるセミナーなども、さまざまな機会に実施